

… 雨でも休まず；第83、84、85、86回 …

## 「若柳嵐山の森・小原本陣の森」から

- ・活動1：若柳嵐山の森：10月5日（第一土曜日）、参加費300円、弁当持参
  - ・森林整備に注力する。また、活動内容の充実について相談する。
- ・活動2：小原本陣の森：10月12日（第二土曜日）~~参加費300円~~、弁当持参
  - ・9時15分駅前集合。車分乗で行く。今月は、都合により12日。
- ・活動3：技能講習会：10月14日：体育の日、於：若柳・嵐山の森
  - ・伐採技術指導および町の歴史（鉛材デザインの話）。奮って参加されたい。
- ・活動4：若柳嵐山の森：10月20日（第三曜日）~~参加費500円~~、飯のみ持参
  - ・里山交流が目的：森林作業保険+通信費+お昼は飯だけ持参の事
  - ・活動3、のみ申込必要：TEL&FAX 03-3411-1636（石村）
  
- ・集 合：相模湖駅前9時15分。8時46分、9時02分のJR高尾発に乗るべし。
- ・服 装；汚れても良い格好・着替え ~~等~~ 足元が滑らない履物
- ・持参品；軍手、自分の食器、万一の怪我に備えて…保険証写し
  - そして、作業を楽しむ“ゆとり”と怪我をしない「心構え」

### 第8回；森林と市民を結ぶ全国の集い（報告）

群馬県で行われた第八分会にパネラーとして出席した。自然（森林）破壊に危機感を持つ人々が、こんなに多く集まっているのかと驚く。同時にこれらの市民団体が何んとかしてこれを解決なれば成らないと取り組んでいる姿に力強く思った。然し、この程度では未だ、問題の解決には程遠い。もっと力強くピッチを上げねば成らない。

第八分会のテーマは「上下流域に於ける森林管理と地域交流」であった。ここで当会の活動の経緯と現状、今は仲間の内から川下の川崎（木崎さん）・横浜（牧島さん）・湘南（鷹田さん）が「水源の森を守る会」を結成して下流から上流の水源の森を守る活動の支援する組織が動き始めた事を報告した。自然破壊は結局は、人間のエゴ（欲望）の成せる業で、その業（欲望）が人類滅亡の道を歩んでいる。早くそれに気付いて自然と調和しなければ成らない。

活動は、広い視野をもって足元を見つめて、心の触れ合いの輪を広げる事だと言った人がいた。同感である。私の森林仲間たちは、正にそんな人達の集まりだと誇らしく思った。

活動を継続するために予想していた以上に困難が伴っている。でも、困難を楽しむ事でこれを克服する事もできる。無神論者である私が言うにはおかしいが神様は、我々に解決できない課題を与えないものだ。

（石村）

・活動報告1：若柳嵐山の森（9月7日、第一土曜日）

… 報告：富沢裕作

◎ チョットうそ寒い小雨の煙るこの日、19人の仲間が集まった。窯場の広場には早くも和田さんが…。小雨でも森は、グッショリ濡れているから…、「今日は、なにやんだっけ、ウダウダ…」

髭園大棟梁のご指示は、「皆んな適当に判断して然るべく効果を上げよ」。

◎ そこで私奴は、材の伐出道具の“ヒッパリダコ”をヒッパリ出す。「エッ、今日もやるの？ 雨、降ってるよ」と和田さん。ウン、今日は、濡れているから楽だぜ…と素知らぬ振りの私奴。そこで、二人して丸太出しに取組んだのであります。山肌の下草は、一段と伸びて濡草が重く立ちはだかっている。2間位の短い

材から優先的に引きズリ出しては、谷の斜面に落とす。15~6本も下ろしただろう。残りの良さそうな代物を3間位に切ろうとしたら…、ン？ 切れない。どうもチェンソーの歯が逆らしい。前回、調整した奴は誰だ。止むなく中断。あと、10本程の伐倒木を確認して山を下る事にした。それにしても濡れ草と汗で全身、グチョグチョ。濡れて気持ちが悪い。体温が下がるにつけ寒くなる。

◎ 下りと同時に雨足が強くなる。朝、張ったテントが手頃なランチサイトになっていた。ペットボトルの氷の溶けた水で手を洗いランチとしたが震えも出て来て堪えきれず、上着や肌着を脱ぐとタップリ含んだ雨と汗がタップリ水を含んだ濡れ雑巾のように滴り落ちる。

◎ 仲間たちは皆んな夫々に「適当に判断して然るべく効果を上げて」本日の成果を確認し合った。

◎ 結局、帰路には「駅前かどや」で暖を摂るハメになって家に辿りついたのは何時もの通り【灯ともし頃】と相なりました。

\*ご注意；“チェンソーは、使う前のチェックより整備後の確認を…”。勉強になります。

・活動報告2：小原本陣の森（9月8日、第二曜日）

報告 鈴木敏美

●天候：曇り時々晴れ、作業中は、まだまだ猛暑の感。今月は第一土・第二日曜日活動が連続したせいか参加は6人、だが、やる気とパワーは100万馬力。 … 問題なし、継続は力。

●作業基地にするために径30cm以上の杉材を引っ張り出し、皮を剥ぎ、ロゴソールで一刀両断し、イス・テーブル材ができました。ここで一言、報告。材の引き出し等、和田さんの馬力と技術と指導力には感服の至り。優に一人で10人分の働きはある。頼もし限界、有り難い。このテーブル・イスは、11月にはお目見え予定。誰かが言い出した芋煮会も計画進行中。また、選木作業は、(枯損木・被圧木・曲がれ木)と伐採方法も復習しました。来月は、これらを対象の伐採がメインの仕事です。

●今回の選木作業で保安林の事、境界線の事等が気になり9月12日、相模湖町役場の産業建設部でフィールドの森林基本図、位置図、森林簿を入手しました。放置林の増えるキヨウビ(今日日)境界確定には困難を残しますが、不安は解消しました。役場の係りの方の懇切丁寧な対応に感激し、つい「小原本陣の森を明るくしますので見に来て下さい」なんて約束してしまいました。



初参加者を指導する辻田さん

●都合により、次回：第七回活動は、10月12日（土）です。

・活動報告3：若柳嵐山の森（9月15日、第3回）

報告 須藤 章

\* 初参加10名を含む63人の大所帯。どうした事か園田師は、痛々しく腫れる右足を引きずって登場。「この怪我は、山仕事によるもの、これぞ弘法も筆の誤りの好例である」と威張って訓示。痛々しいお姿に「お世話を致しましょう」と言う気遣う者もなく、山作業は、大日向（おひな）さんの陣頭指揮。尚、怪我は、掛け木の処理中にそれが撥ね木となって襲ったそうです。森は危険と隣合わせ。

◇ 本日は、「栗拾い大会」と言う事で5組の家族連れの参加もあり。御土産の収穫の栗の美味しかったですか？普段の森は、子供にかえったオジサンたちで占められていますが、今日は、ホンモノの子供がいる。何時も、子供たちが遊んでいる森にしたいものです。昼食に頂いた「菊の花団子」には、栗を使った逸品でした。これは前日から準備して作った由。作り方を習ったのですが、難しくて覚えられませんでした。誰かが「来月は、フランス料理が食べたい」とか贅沢を言って賛辞していました。何時もながらの美味しい食事に感謝。

◇炭窯の天井が落ちないように今度は、曲線をきつくするために夏の間に大汗をかいて集めた原木を御柱のように詰め込みました。そのため天井が大きな卵の頭のようで不思議な可愛さになっています。早ければ来月「第三回目火入れ式」となるでしょう。炭焼きの炎を見ながら一杯なんて楽しいぞ～。◇ガーデニング班は、養蜂の西君と連携してレンゲや菜の花を植える場所を造りました。下の「東海自然遊歩道」に降りる小径も綺麗に整備されて、相模湖が一番美しくなる錦秋を迎えます。ガーデニングの一角にバーベキューの炉を計画中。また、新しい楽しさ・嬉しさが追加されます。何んでも、この付近にもバーベキュー原料（猪）があるとか。誰か猪罠を仕掛けてくれないかな～。

◇生態系調査 …

… 報告 篠田 授樹

相模渓谷弁天橋付近にて、主に投網による魚類の生息調査。アユ、オイカワ、ヨシノボリ類、ヌマチブ等、約50固体を捕獲。この他、大きなコイも目視しました。投網を初めて見る参加者もいて大いに楽しく面白く盛り上りました。初めての経験でも徐々に上達し最後には、それなりに漁師っぽくなりました。10月の予定：19日（土）～20日（日） 17:00～21:00 夜間ライトトラップ（灯による昆虫収集）17:00に炭窯広場集合。テント泊まりも楽しい。沢山の参加求む。

活動報告4：植生勉強会（若柳嵐山の森）

指導：林 将之

9月23日：秋分の日。我々のフィールドを正しく理解し保全するために16名の仲間が林さんの指導で森に入った。主な内容は、葉の形で植物の種・亜種を分類し樹木を特定する方法を教えてくれた。林さんの植物に関する博学・造詣の深さ、指導の旨さに仲間たち全員、驚嘆の声を挙げていた。何んでも本も出版しており若いのにこの道では、名のある人物らしい。静かな人柄だから普段は余り、目立たなかったが、森林は、このような人も準備して待っていてくれている。

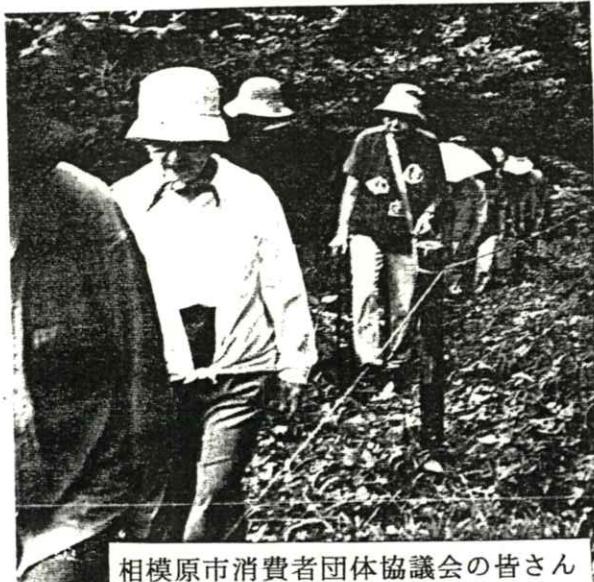
（報告、資料）

山に想う

投稿：山梨県／北都留郡森林組合 長田 助成

私が子供の頃、50年前、冬になると何処の山からも木炭を焼く「けむり」が上っていました。近頃は、全く見れなくなった。農閑期を利用して山に入り麦や桑などを束ねる蔓類（藤・アケビ、マタタビ等）を切って春から夏に使用するロープの替用とし雑木やヒノキ・スギにからみついているものを切って、木炭俵などに使用していました。その事が立派な広葉樹林、人口林を自然に造っていたのではないか。人と森は、自然と調和して成り立っています。

蔓類は厄介ものため、他人の山に入って切って良い事になっていました。それが今、切って使う人がないため蔓が樹に絡み付き育ちの悪い樹々が増えています。「自然は、自然に置け」と主張する自然保護団体もいるが、そのようにするとわが国の山では、蔓がはびこりしっかり根を張った木は育たなくなります。それは、原生林のような自然の摂理のままにバランスが取れている所の話です。



相模原市消費者団体協議会の皆さん

## 相模原市から森を視察

- 9月4日、「相模原市消費者団体協議会」から森林の実態を知りたいと連絡を受けた。

森林は、沢山の人々の参加が必要だから、優先して受け入れる事にしている。交流センターで

わが国の森林の荒廃の現状を説明した後、雪害被害の「22林番の森」を見せた。余りの無さに参加の36名が息を飲んでいた。

引き続き、我々の森：炭窯広場～育苗樹林～養蜂の森～最初の森～炭窯広場とそれぞれの活動の意味を説明しながら案内した。

時間をユッタリ取って、金児さんに手伝って貰って鋸引き体験や下草刈りもしてもらった。最後、みんなで栗拾いをしたが参加者は、森林の恵みを理解してくれたと思う。

- 1) 10月5日(第1土曜日)：若柳嵐山の森  
9時15分駅前集合、参加費300円  
\*土曜日になっている…注意
- 2) 10月12日(第2土曜日)：小原本陣の森  
9時15分駅前集合、参加費300円
- 3) 10月14日(第3日)、技能講習会、若柳の森
- 4) 10月20日(第4土曜日)：若柳嵐山の森  
9時15分駅前集合、参加費500円

昭和30年～45年頃、国を挙げて奨励の歌まで作って植林をしました。今は、安い輸入材のために森つくりをする人がいなくなってしまっています。森は、荒れる一方です。空気や水を供給してくれる森を放置できない…、そんな想いから私は、「森林は、山林の地」と思い山で林を食（は：）む気持ちで仕事をしています。大きな木が水を生み、下流の人々を潤し、海の恩恵を活かせます。そんな川・河を造りたいと思いながら、森に取り組んでいます。私のところのように山間では、多くの人は住みにくい。弟妹たちも下流域に移って行ってしまったが彼等にも清々しい水を流してやりたいと思って仕事に励んでいます。

## 月次：運営会議 於：マルモ出版

- 第三金曜日、今月20日。マルモ出版本社で行う運営会議には、熱心な森林仲間が9名、集って以下を決めてくれた
  - 1) 西君提案の養蜂は、生態系を豊にしてこれから会としても応援する。
  - 2) 作業チームを強化して本格的な森林整備請負を目指す。
  - 3) 参加人数も増えて、これ以上地主さんに迷惑はかけられない
  - イ、スーパーハウス手配して作業用具その他を森で管理する。
  - ロ、炊飯は、炭窯広場に移す
- 4) 資金つくりにいろいろな提案が3案が出てそれぞれ実行に移す段取りをとった。

モットー 急がず、休まず、楽しく、無理せずボチボチと…、そして…沢山のご意見下さい。

名称 NPO：緑のダム北相模／森林部会

事務局 154-0023

東京都 世田谷区 若林3-35-9

TEL&FAX 03-3411-1636(自宅)

TEL 03-3411-0602(事務局)

お問い合わせ 石村黄仁 (自然科学研究所 事務局)